

私のおばあちゃんは、体に障がいがあります。目が見えなくて、足も悪いので、自力では少ししか歩けません。食事も、1人では食べられません。私は、昔はそんなおばあちゃんのことを、「なんで私にできる簡単なことがおばあちゃんにはできないんだろう。」と思っていました。でも、おばあちゃんの生活を一部手伝って見たら、できない訳や、困っていることなどが分かりました。これから、その体験やわかったこと、心のふれあいなどを紹介して行きます。

はじめで、やってみたことは、おばあちゃんを案内したことです。おばあちゃんが玄関から落ちそうになっていたので、手を引いて案内しました。おばあちゃんは5cmくらいの段差ものりこえられないので、大変だなと思いました。町中は段差ばかりなので、とても危ないなと思いました。障がいをもつ人のためにも、町の段差はなくした方がいいと思います。

次は気づいたことを紹介していきます。私たちは、ふだんごくふつうに買い物します。欲しい物がどこにあるか、何円か、期限はいつまでか。こんなことは、目で見たらすぐに分かります。では、目の見えない人はどうでしょう。何がどこにあるかも分からず、期限も見えません。なので、助けてもらわなければいけません。私のおばあちゃんのように、ヘルパーさんがついている人は、代わりに探したり調べたりしてくれます。でも、1人の人はどこに何があるかわかりません。なので、まわりの人、店員さんが助けてあげることが大切だなと私は思いました。他にも、期限は点字で表示したりするのも大切だと思いました。障がいのある人も、ない人も、助け合って生きていかなければいけないということに気づきました。それからは、私はおばあちゃんの苦労を理解して、「だから困っているんだ。」とちゃんと分かって生活しています。このように、ちゃんと障がい者のことを理解して助け合って生きていくのは大切だと私は思います。

これからは、お互いに理解しあって、心の輪が広がっていく社会になればいいなと私は思いました。